

いわきサイエンスカフェ 「いわきの海と魚を語ろう」

2012年3月31日

川辺みどり
東京海洋大学

いわきサイエンスカフェは...

1

- いつ、どこで、だれがやっているの？

2

- 何をやっているの？

3

- なぜやっているの？

いわきサイエンスカフェは...

1

- いつ、どこで、だれがやっているの？

2

- 何をやっているの？

3

- なぜやっているの？

事務局

月1回
土曜日
開催

いわき市
水産振興
室

東京
海洋大学

福島県
水試

福島県
水産
事務所

いわき
サイエンス
カフェ

いわき市
海星高校

いわき市
中央市場

(財)ふくしま
海洋科学
博物館

小名浜機船
底曳漁業
協同組合

福島県
漁連

いわき市
漁業
協同組合

福島県
水産会館

サイエンスカフェ「いわきの海と魚を語ろう」
実行委員会の構成

いわきサイエンスカフェは...

1

•だれがやっているの？

2

•何をやっているの？

3

•なぜやっているの？

サイエンスカフェは 学び合いの場



- お茶を飲みながら、気軽に科学技術にかかわる話題について話し合う場。
- 専門家が専門的な観点から話をした後、参加している人たちで、そのテーマについて、話し合う。



非専門の人たち

- 専門家から何かを学びとる
- 他の人たちの意見を知る



いろいろな専門家
非専門の人たちが

- 考えていること、
- 望んでいること、
- 懸念していること、
- 恐れていること


を学ぶ

いわきサイエンスカフェは...

いわき市の基幹産業である水産業が、
現在の厳しい状況から一歩踏み出していくために
海や漁業に関わる様々な立場の方々が、

 情報を共有し、

 話し合い、

 これからの本市の海と魚と放射能について
とともに考えていく

ための場です。

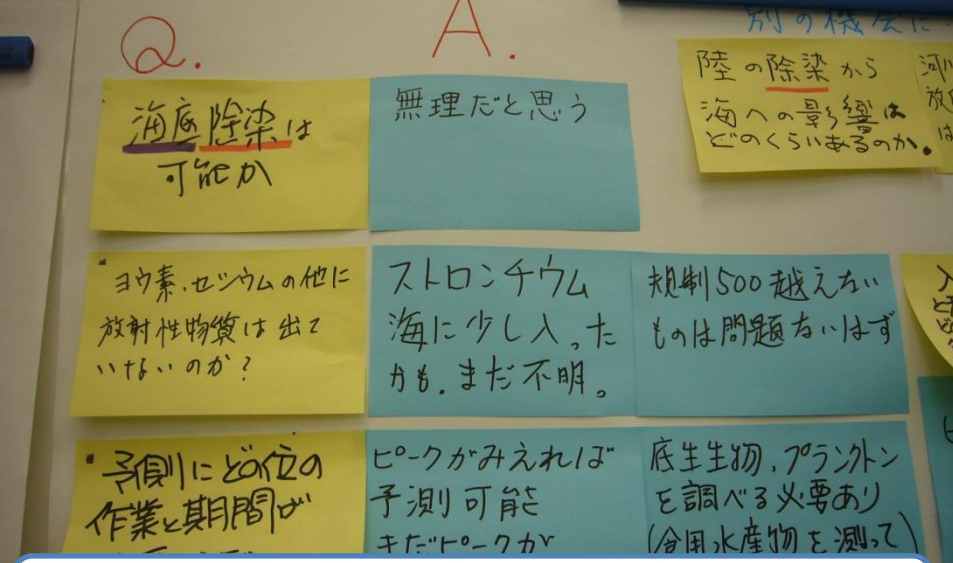
2011年11月20日、福島県水産会館
(いわき市)に福島県およびいわき市の
水産業に関わる人々約30名が集まり、
第1回サイエンスカフェ「いわきの海
と魚を語ろう」(いわきサイエンスカ
フェ)が開催されました。





話題1 「水産業の現状について」
野崎 哲 福島県漁業協同組合連合会 会長

話題2 「放射性物質分布のモニタリングと海洋生物への移行について」
石丸 隆 東京海洋大学 教授




ポ ストイットに記入された質問と回答

会場全体での質疑応答 / 意見交換

いわきサイエンスカフェ での話題提供

	日程	話題
1	2011年 11月20 日	<ol style="list-style-type: none"><li data-bbox="452 311 1837 743">1. 福島県漁業の現状（野崎 哲・福島県漁連会長）<ul style="list-style-type: none"><li data-bbox="452 496 1122 568">➤ 深刻な漁業の現状<li data-bbox="452 589 1798 743">➤ 漁業の再開に向けて、科学的知見を得て、冷静に乗り切っていきたい<li data-bbox="452 796 1837 1329">2. 放射性物質分布のモニタリングと海洋生物への移行について（石丸隆・東京海洋大学教授）<ul style="list-style-type: none"><li data-bbox="452 1089 1818 1160">➤ 放射性物質の海洋生態系への取り込み<li data-bbox="452 1182 1798 1329">➤ 東京海洋大学の7月、10月の練習船による調査

いわきサイエンスカフェ での話題提供

	日程	話題
2	12月17日 	<p>水産物における放射性物質のモニタリング経過について（水野 拓治・福島県水産試験場）</p> <p>福島第一原子力発電所事故に伴う福島県内の水産物の緊急時モニタリング及び海水等の環境放射能モニタリングの状況を中心に、魚種ごとの放射性物質の数値の傾向や、海水・海底土壌に含まれる放射性物質の拡散状況など</p>

いわきサイエンスカフェ での話題提供

	日程	Topics
3	2012年 1月15日	<ol style="list-style-type: none"><li data-bbox="542 339 1837 568">1. 水産物における放射性物質のモニタリング経過について（水野 拓治・福島県水産試験場） 定番<li data-bbox="542 619 1837 1339">2. 築地市場から見たいわきの水産物について（栗竹俊夫・NPO法人築地魚市場銀鱗会理事長）<ul style="list-style-type: none"><li data-bbox="542 882 1837 1096">➡ 築地での水産物の扱いは、東北が4割を占め、なかでも福島の魚は常磐物として築地では評価が高い<li data-bbox="542 1133 1837 1339">➡ 原発事故以降、いわきをはじめ、福島の魚が入荷せず、福島の魚が市場に並ばない状況が続いていること。

いわきサイエンスカフェ での話題提供

	日程	Topics
4	2月18日	<ol style="list-style-type: none"><li data-bbox="542 468 1837 715">1. 水産物における放射性物質のモニタリング経過について（水野 拓治・福島県水産試験場） 定番<li data-bbox="542 768 1837 1196">2. 食品中の放射性物質の新たな基準値について<ul style="list-style-type: none"><li data-bbox="542 982 1837 1196">🐟 平成24年4月から施行される食品中の放射性物質の新たな基準値（年間線量1mSv）について

いわきサイエンスカフェは...

1

• いつ、どこで、だれが
やっているの？

2

• 何をやっているの？

3

• なぜやっているの？

国が安全とする放射線量の基準は信用できるのか。市民と専門家がともに考える「市民・科学者国際会議—放射線による健康リスク」が12日、東京都渋谷区の国立オリンピ

ク記念青少年総合センターで開かれた。専門家は異口同音に政府などの方針を批判、市民自らの行動の重要性を訴えた。(上田千秋)

市民連携 自ら判断を

都内で「放射線リスク」会議

福島県では先月、県立故では発生当初、当局が原因だと宣伝していた医科大で被ばくの影響にがん以外の疾患は事故と「た」と紹介。経系の疾患は「放射能恐が体はどういう影響を写開かれた。集まったのは原発推進の国際原子力機関(IAEA)や政府系(IAEA)の研究者たちだった。十二日の会議は、福島県医大での会議に対抗する意味を含め、NPO法人「セイブスプロジェクト」と市民団体「CRMS市民放射能測定所」が主催した。

市民、科学者が参加して開かれた放射線による健康リスクに関する国際会議。12日、東京都渋谷区で



原子カムラ 被ばく影響を過小評価

んと説明されていない」と続け、福島原発事故に「福島原発事故による住民の被ばく線量は少なく、健康への影響も限定事故による被ばくの実態を調べている「ドイツ放射線防護協会」のセバスの副会長は「年間放射線量チェルノブイリ事故よりが、以下でも、障害も、福島事故の被害は小のある子どもが生まれる」と必要以上に強調し確率が上がった地域がある」と批判した。西ドイツでも市民による「放射線量の測定所」ができた。子どもたちにミルクや魚を与えてよいかどうか、線量上限を法定の「1ミリシーベルト以下」と決めた。名古屋大の沢田昭二名、松井医師はこの緩和方針を批判し、長崎の原野村について「こんな根拠爆被害の実態を説明。その上で「福島県医大の分らない」「切った議の中身については出席、安全とはお断りされた者の顔を覗かれば、おさまらぬ人間が連携と皮肉、被ばく影響を「独自に判断し、一番弱い立場の手をまた守っていかなくてはならない」と語った。

放射能物質による食品汚染 → リスク受容の問題に帰着



• 誰が、
• どうやって、
判断するのか？

専門家への
信頼度

単純

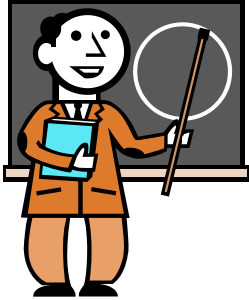
複雑

不確実

多義的

原発事故にともなう
さまざまなリスク

私を信じ
なさい

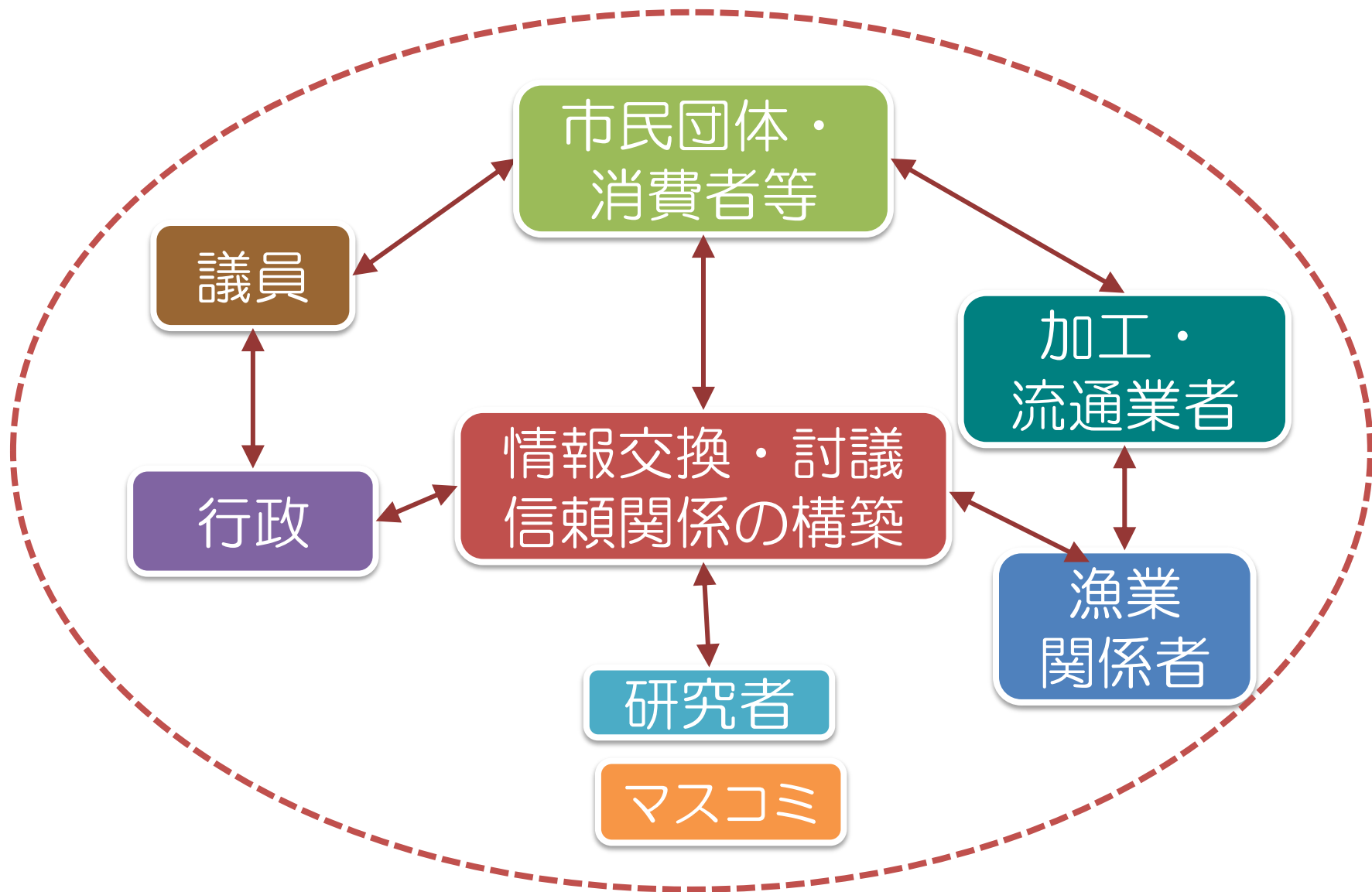


一緒に考え
よう



時代

＜専門家にお任せ＞から＜一緒に考えよう＝参加＞の時代へ



漁業における、これからのリスクコミュニケーション
 (浦野 (2001) を参考に作成)



いわき市民

いわき市

東京
海洋大学

福島県水試



マスコミ

福島県
水産事務
所

いわき
サイエンス
カフェ

いわき市
海星高校



いわき市
中央市場

(財)ふくしま
海洋科学博
物館

小名浜機船
底曳漁業
協同組合

福島県
漁連

いわき市
漁業
協同組合



アクアマリン経由



市外の市民



漁業者

回を重ねるごとにいろいろな方々の参加が増えています

いわきサイエンスカフェは...

1

- Q いつ、どこで、だれがやっているの？
- A 月1回（土曜日）いわき市で水産業に関わる人たちと市民がいっしょに開いています。

2

- Q 何をやっているの？
- A 海と魚についての学び合いです。


3

- Q なぜやっているの？
- A 原発事故による海と魚のリスクをみんなで考えるためです。

いわきサイエンスカフェは... (ふりかえりシートから)

- ☹ 「内容が深刻なので所属を離れて個人の意見は出てこないのでは？」《第1回から》
- 😊 「多種多様な職種の間が集まり、意見交換する場として最高です」
- 😊 「それぞれの立場からのご意見。ご興味のある点を伺うことができて新鮮」
- 😊 「漁連、組合、加工業、漁業者の各々の意見が聞けたことがよかった」

😊 「情報発信の一手段となれば。」

 「市や水産試験場のHP等でこのカフェで語られた内容を発信してもらいたい」

 「この会を県や国へ報告し検討していただきたい」

いわきサイエンスカフェの運営を 続けていくうえでの課題は...

🐟 参加できる人数の限界

⇔ 現行30数人

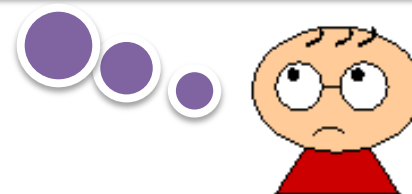
🐟 各セクターや地域の多層性への対処

例. 漁連—漁協—漁業者

🐟 議論の深化

⇔ 時間の制限、参加者のばらつき

🐟 意思・政策決定との関わり



いわきサイエンスカフェ

お問い合わせは
いわき市農林水産部
水産振興室
河野（かわの）さんへ
電話：0246-22-7487
ファクス：0246-35-0777



引用文献

浦野紘平編著（2001）『化学物質のリスクコミュニケーションガイド』、ぎょうせい。